

ふるさと米子 探検隊

第15号

米子の水はなぜおいしい?の巻

2011年3月30日



米子の水のおいしい秘密

編／発行 米子市立図書館

TEL0859-22-2612 FAX0859-22-2637

<http://www.yonago-toshokan.jp>

石油のたくさんとれる砂漠^{さばく}の国から日本にやって来たお金もちが、おみやげは何が良いですか? と聞かれて「日本の水道の蛇口^{じゃぐち}がほしい。水がどんどん出てくるから」と答えたという笑い話があります。世界の国の中で、飲み水^のが苦勞^{くろう}せずに手に入る国はそれほど多くはないのです。私たちの住んでいる鳥取県は、水に恵まれた日本の中でも、とりわけ「おいしい水」の多いところとして知られています。探検隊第5号「川とくらしの巻」で学んだように、水は私たちがくらしていくのにとっても大切なものです。「川とくらしの巻」で学んだことを思い出しながら、探検隊第15号では、米子の水の歴史と、そのおいしさの秘密について学びます。

探検隊の参考資料



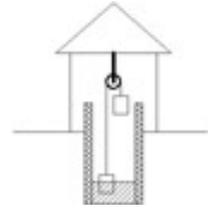
図書館には、みんなの探検を助けてくれるたくさんの資料があります。

- ・「おいしい水の郷 鳥取」祝部大輔／著 ライトスタッフ 2010 Y518／杓
- ・「ふるさと歴史散歩21 米子の名水」亀尾八洲雄／著・刊 2003 Y224／加
- ・「かんきょう教室 水とみどりの米子」環境学習資料編集委員会／編
米子市教育委員会 1996 Y519／K6
- ・「米子市水道ビジョン」米子市水道局／編・刊 2008 Y518／珣
- ・「米子市水道80年史」米子市水道局／編・刊 2009 Y518／珣
- ・「米子商業史」米子商工会議所商業史編纂特別委員会／編 米子市ほか／刊
1990 Y670／Y3-9
- ・「水はめぐる」ロシェル・ストラウス／著 汐文社 2008 児童425／ヲ

(資料名の後の数字と記号は「請求記号」です(ラベルの番号)。資料がどこに置いてあるかを示しています。)

米子の3名水

江戸時代、江戸や京都のような大きな町では「水売り」という商売があったことが知られています。米子では、明治時代のおわりごろから大正時代に「水売り」があったようです。米子の場合、明治時代の中ごろから急に町の人口が増えて、当時は下水道などがありませんから、生活排水などで町内の井戸水が汚れました。それから「水売り」が始まったという説があります。その時に売られていたのが「米子の名水」と呼ばれていた水でした。



江戸時代のつるべ式井戸



最近まであった手押ポンプ式井戸

① 賀茂神社天満宮 宮水



賀茂神社天満宮 宮水

場所：米子市加茂町2丁目212
加茂神社天満宮

探検隊第3号「お寺や神社を調べてみようの巻」で加茂神社天満宮のことは詳しく勉強したことがあります。この宮水がむかし、「よなぐ（ご）井」と呼ばれていたこと、またこの神社の隣に住んでいた栗島村の長者が88歳になって子どもができたことから、「八十八の子」にちなんで米子と呼ばれるようになったとか、米子という地名伝承にも登場する古い神社です。むかし

の井戸は、1997年（平成9）の道路拡張工事で、今の広い道路の下になってしまいました。現在の井戸は、むかしの水源からポンプで汲みあげたものだそうです。江戸時代に書かれた『米府神社由来記』（1844年）には「（境内の）東の方に古い井戸があり、この水が清らかなため、いろいろなところから汲みにくるものが多い」と書かれています。

② 桂住寺 やな井

場所：米子市愛宕町29

桂住寺

就将小学校のグランド側に、桂住寺と総泉寺という大きなお寺がならんであります。桂住寺のお墓のある石垣のあたりに、次のページの写真のような「やな井」があります。小学校のグランド側と2つのお寺の間の狭い道は、「出雲街道」と呼ばれ、江戸時代の国道

の役目をした重要な道路でした。今の「やな井」も道路の拡張工事のため1985年（昭和60）にこの場所に移されています。江戸時代の終わりごろ、山内東園やまうちとうえんという人の書いた『米府鬼話』というコワイ話を集めた本の中に「やな井」のことが書かれています。「米子のお城の南の方に、矢孔井という名前の井戸がある。むかしの人の言い伝えによれば、ある人が地面ゆみやに弓矢が刺さっているのを見つけた。ためしにこの弓を引き抜いてみたところ、清水しみずがあふれ出てきた。この穴をひろげて井戸を掘り、矢孔井といわれるようになった」。この「やな井」は、松江の方から米子の町へ入る入口にあった点が注目されます。今では飲み水としては使われていませんが、むかしからお酒造りのために使われるなど、とてもおいしい水だったといわれています。



けいじゅうじ 桂住寺 やな井

③ 法城寺 高砂連理水

場所：米子市博労町 2 丁目 40

法城寺 入口

勝田神社と米子東高校の間の細い道を入ったところに法城寺があります。米子市を代表する詩人・生田春月の墓碑いきたしゅんげつ ぼひがあるお寺です。お寺の入口にはむかし「連理根上れんねあがり松」という天然記念物の松があったことで有名でした。これは2本の黒松の大木の根が、地表で1本に結びついたためずらしい形の松で、長い間県指定の天然記念物になっていましたが、1968年（昭和43）に枯れたため、この指定も取り消されてしまいました。今もこの不思議な形の松の木の根をここで見るができます。根上かがり松に続く坂道の下に、連理水の井戸があります。



ほうじょうじ たかさごれんりすい 法城寺 高砂連理水

郷土史家の亀尾八洲雄かめおやすおさんは『ふるさと歴史散歩21 米子の名水』という本の中で、米子の3名水のほかに、たくさんたの名水を紹介しています。

元称名寺「薬師やくしの井戸」（富士見町）、「虎屋とらやまんじゅう饅頭の井戸」（博労町1丁目）、「一里塚いちりづかの井戸」（博労町1丁目）、「大塚煮売屋おおつかにうりやの井戸」（博労町2丁目）、「正鯉せいりの井戸」（博労町4丁目）、「丹後屋たんごやの井戸」（元町商店街）、「東玉もとまの井戸」（目久美町）、「土橋どばしの地蔵尊じぞうそん井戸」（紺屋町）、「恵比寿えびすの井戸」（尾高町）などの名前があります。

みんなも地図の上でこれらの「名水」を探してみよう！



ほんぐう いづみ
本宮の泉



あめ まない
天の真名井の水車小屋

ばれました（写真・中）。ここから流れ出る泉川の下流には、多くの有名な遺跡があります。日本書記とか古事記という古い文献にもこの名前が出てきます。大むかしの人のくらしを支え、また淀江の清酒や醤油作りが盛んになったのも、この名水のおかげです。淀江町のマンホールには、天の真名井の水車が描かれています（写真・右下）。淀江町には、このほかにも「白鳳の里」（淀江町福岡1548-1）、「淀江トンネル湧水」（山陰道淀江トンネル西入口）、「湯口の泉」（淀江町稲吉）、「ラピスパの温泉水」（淀江町淀江2-38）など、たくさんの名水が知られています。

よどえ 淀江の名水

米子市の東側にひろがる淀江の町は、名水の町としても有名です。妻木晩田遺跡などをはじめとする淀江町の古代のすばらしい歴史も、豊かな水のめぐみと深い関係がありそうです。

① 本宮の泉

場所：米子市淀江町本宮

宇田川平野の水源にあたる本宮の泉（写真・上）は、1日15000トンもの湧水量があります。本宮・西尾原地区の簡易水道の水源としても使われています。1985年（昭和60）、鳥取県から「因伯の名水」の指定を受けました。亜熱帯植物のクリハランの自生地としても有名です。今ではここから数百メートル離れた大山道路沿いの「淀江どんぐり村」まで水が引かれ、そこで水を汲む人が多くなりました。

② 天の真名井

場所：米子市淀江町高井谷

高井谷泉川にある天の真名井は、1986年（昭和61）に、環境庁から「名水百選」に選



淀江町のマンホール
真名井の水車小屋と「名水と石馬の里よどえ」という言葉が書いてあります。

米子の水がおいしい秘密 祝部先生の研究

2010年12月、私たち探検隊を助けてくれるすばらしい本が出版されました。鳥取大学医学部医学教育学分野・祝部大輔（ほうり・だいすけ）先生が米子のライト・スタッフから出された『おいしい水の郷 鳥取』という本です。祝部先生は、科学者としての立場から、鳥取県内の名水を調査・分析して、その「おいしい水」の理由を私たちに教えてくださいました。

水質項目	おいしい水の目安	おいしい水の要件	よなごの水	米子市水道水
①蒸発残留物(mg/l)	30-200	50-200	140	98
②硬度(mg/l)	10-100	50以下	71	40.8
③過マンガン酸カリウム消費量(mg/l)	3以下	1.0以下 1.5以下(地下水)	0.5	0.54
④遊離炭酸(mg/l)	3-30	-	2.4	8.4
⑤水温(℃)	20以下	-	-	19.7
⑥臭気度(度)	3以下	-	<1	異常でない
⑦残留塩素(mg/l)	0.4以下	-	なし	0.25
⑧臭味	-	なし	なし	なし
⑨pH値	-	6.0-7.5	7.8	6.97
⑩鉄(mg/l)	-	0.02以下	<0.02	0.03未満
⑪塩素イオン(mg/l)	-	50以下	11	9.7

『おいしい水の郷 鳥取』 p16より

1984年、厚生省（現 厚生労働省）は「おいしい水の要件」を発表し「おいしい水研究会」を作りました。1985年には「おいしい水の目安」を公開して、水の味をよくする成分とその基準値を明らかにしました。厚生省の「おいしい水研究会」が選んだ水道水のおいしい都市に、鳥取県では鳥取市と米子市が入っています。また週刊誌『サンデー毎日』（2009. 11. 1）の「日本一激ウマの水道水はココだ！」という特集で米子市が選ばれました。祝部先生は、よなごの水（ペットボトル）や米子市の水道水が高い評価を受ける理由は、大山のおかげだといわれます。米子の水道水の大きな特徴は、車尾水源地などの深井戸から汲み上げた地下水であることです。地下水にはミネラル分が適度に含まれ、自然のろ過浄化作用を受けているため、少しの塩素消毒をするだけでおいしい飲み水となります。

表の言葉解説

①蒸発残留物：水の中に含まれる物質のこと。②硬度：水に含まれるカルシウムとマグネシウムの合計。③過マンガン酸カリウム消費量：水の汚染度を示す数値。④遊離炭酸：水に解けている二酸化炭素のこと。⑦残留塩素：水中に残った消毒用塩素のこと。⑨pH値：溶液中の水素イオン濃度のこと。⑩鉄：水の金気や渋みを感じさせる成分。⑪塩素イオン：塩味を感じさせるミネラル成分。

日本ではふつうの大人が1日で使う水の使用量は約300リットルといわれています。米子市では夏の暑い日に使われる水量は、1日で約85117 m^3 です(2004年)。この水量は10トントラックで8511台分、米子市役所の建物をマスにして計ると約1杯分にあたります。専門家も認める米子のおいしい水を、これだけ使うことができるようになるためには、多くの人の大変な努力の積み重ねがありました。



くずも
車尾にある水道局 (写真①)



水道局にある記念館入口 (写真②)
1987年市制60周年記念事業の1つとして、米子市水道記念館に改装整備されました。



そうせつきねんひ
創設記念碑 (写真③)

米子市水道局 誕生の歴史

むかしから米子は水に恵まれた土地だといわれてきました。ところが明治時代のなかばぐらいから、人口が急に増えました。また、中小の工場も出来てきました。当時は下水道などがありませんから、町内の井戸水が急に汚れてきて大きな問題になりました。1913年(大正2)、米子町(当時はまだ市になっていません)は、鳥取県の衛生課にたのんで町内1500か所の井戸の水質検査をしました。その結果、飲んでも良い井戸水は全体の約6パーセント(100の井戸のうち6個)だけだったそうです。これが大きな問題となりました。1922年(大正11)に就任した西尾常彦町長は、水道建設に積極的に取り組み、水源をいくつかの候補がある中で、日野川近くの地下水からとることに決めました。しかしいろいろな事情から工事の許可が出たのは1924年(大正13)、工事が完成して水道竣工祝賀式が当時の錦公園で行われたのは、1926年(大正15)のことでした。

当時としては大工事のこの事業には大きな資金が必要でした。この費用をどうするかが大問題でしたが、総工費の約1割にあたる6万8000円もの大金が町内有志の方々から寄付されました。この時の苦労の歴史が、創設記念碑に刻まれています。(写真③)

水道局 発展の歴史

左ページの写真②は、今の「米子市水道記念館」です。1926年（大正15）の水道事業が始まる時、中央ポンプ場・監視室として建設され、1970年（昭和45）まで使用されました。この建物は、1996年（平成8）、米子市を代表する近代建築の1つとして「県民の建物100選」に選ばれました。また2001年（平成13）には、このポンプ場建物・水道局敷地内の水神社・創設記念碑の3点が、国の有形文化財として登録されました。

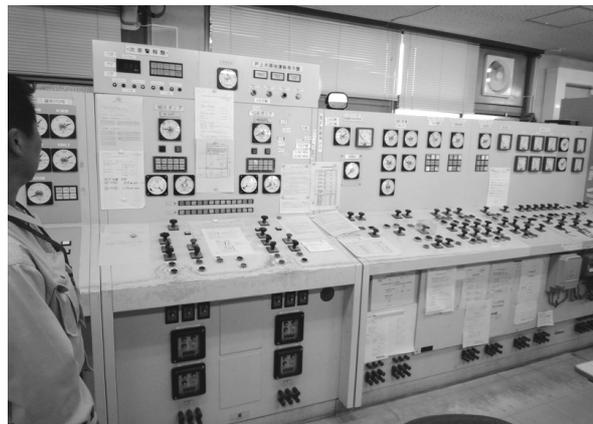
水道水の給水が始まってから80年以上の年月が経ちました。今では給水区域の水道管を一直線につなげると、長さは米子駅から電車に乗って東北の山形駅まで行けるほど、1300kmまで伸びています。ここまで発展してきた米子の水道事業の歴史は、「米子市水道記念館」の中のいろいろな展示から学ぶことができます。また、水道局には「なっとく水道ハウス」という面白い施設があり、ここでは水道本管から皆さんの家の蛇口までの水の流れ



大人気の「よなごの水」

が一目でわかるように工夫されています。

最後の写真は車尾水源地の最も新しい深井戸3号井の汲み上げ管の様子です。この近くにある深井戸2号井を水源とする「よなごの水」（ペットボトル）は、おいしい水として大評判になっています。2004年（平成16）に米子市で開催された「エコアジア2004」のためにつくられたものですが、今では米子を代表する名産品となりました。



給水のコントロールパネル
現在では、パソコンで管理しているそうです。



巨大な貯水タンク



深井戸3号井のくみ上げパイプ

※ 私たち米子に住む人間は、こんなに素晴らしい水環境に恵まれているのです。
この環境をどうしたら未来へ伝えていけるのか、みんなも一緒に考えてみよう！

米子の名水地図

